

「すべてが私を作るものになる」

エレミヤ書 29 章 11 節

聖学院大学 心理福祉学科 120S 河野安奈

今日は私が大学生を送る中での経験を交えてお話をさせていただこうと思います。

私は 2020 年の春に聖学院大学に入学し、心理福祉学部の四年生として、また、聖学院大学クリスチャンフェローシップ SCF の会員として楽しく大学生活を送っています。

突然ですが、2020 年の春といえばなにを思い出すでしょうか？主に世界的に話題になったのは新型コロナウイルスの話題だと思います。私の大学生活のスタートは新型コロナウイルスにより大きな影響を受けました。入学式はなくなり、大学のほとんどの説明がオンライン上でのやり取りとなりました。

入学式がなくなると思っていなかった私は、Twitter やインスタグラムで事前に友達を作らなかったためほとんど友達がいませんでした。友達がいないと言う状況は私にとって非常に心細く、不安で埋め尽くされてしまいました。友達がいないというだけでもしんどかったのですが、私の前に立ちはだかったのはそれだけではありませんでした。1 番大きな壁は単位でした。

同じ学年や一個下くらいまではわかるかもしれませんが、オンライン授業はそこまでしんどいわけはありません。先生の授業の動画を聞いてリアクションペーパーを出す。普段、大学に通ってやらなければいけないことが全て家でできるのです。

ただ、私にはオンライン授業が体質的に合わなく、激しい頭痛や倦怠感から精神的に落ち込んでしまったために春学期の成績は悲惨なものとなりました。

そこまで落ち込んで苦しんでいた私は、夏休みには大学を辞める決心をしていました。受験まで協力をして下さった高校の先生や、大学のために努力してくれている両親のことを裏切ってしまう。と後ろめたい気持ちもありました。

秋学期の直前に入り、両親に辞めさせて下さいと頭を下げました。せめて秋学期まででいいから、と言う両親の答えに私は渋々大学生を続けることにしました。

パソコンが合わなかった私に両親は iPad を用意し、精神的に落ち込み生活習慣もバラバラだったのを直すなど、環境を整えることに協力してくれたおかげで私は無事に 1 年生を終えることができました。そして、1 年の終わりにはほとんど出ていなかった SCF のクリスマス会に参加することになりました。オンラインでしか関わりのない先輩と初めて会い、聖書の話と先生の話の話を聞きました。SCF の先輩はすごく優しく、神様を忘れ荒んでいた私の心を包み込むように接してくれました。居心地のいいサークルで過ごすなかで私は少しずつ神様の愛の深さに気づくことができました。

大きな変化の一年を超えて 2 年生 3 年生として過ごす中で、3 年生のある日授業に向かう中でふと考えることがありました。それは、「私、今みたいに対面で授業があつたらこんな大変なことになって無かつたのだろうな」ということです。この気付きは私にとって過去を悲しみ後悔を思い出させることで

した。SCF の仲間に出会い、神様の私たちへ向かう大きな愛に気づき、やっと友達ができて充実し始めた頃には大学生活がほとんど終わってしまうという現実と、できることならやり直したいと言う後悔に挟まれ、これからの大学生活をどう過ごしていくかを改めて考え始めました。考えても考えても答えは出なく、ただ時間が流れて行く中でまた私の心は不安に陥ってしまいました。また苦しみに落ちてしまうのかと思っていた中で 3 年生のヴェリタス祭でのことを思い出しました。SCF では御言葉たこ焼きを出店し、そのたこ焼きのケースに書いた聖書の言葉を思い出しました。

聖書をお読みします。ヨシュア記 1 章 9 節「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」この御言葉を思い出した時、くしゃくしゃになっていた私の心は真っ直ぐになり、「そっか、神様がいてくださるから大丈夫だ。だから私は自分のやるべきことに向かってまっすぐ突き進めばいい。」のだと気付かされました。この気づきは私にとって大きなものとなりました。私の全信頼をおいている神様が味方でいてくださること、その大きな神様がついてくださるなら怖いものはないということ。そして、神様がたくさん私たちに愛を下さり続けているから私もたくさんの人を愛を持って関わりつづけよう。と思うことができました。

4 年生になり、今までの私の苦しみや喜び、全ての経験が今の私をつくっているということに気づくことができました。気づくことができたのは、SCF での関わりや教会での人との関わりからきているのではないかと思います。今回のテーマ箇所として選ばせていただいたエレミヤ書 29 章 11 節は神様に勇気を付けて欲しいという思いから自分自身で聖書を開き読んでみたところから見つけました。聖書を読む中で、「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」という言葉を見つけ、私の今までの大学生活での苦しみや悲しみ、新しい出会いや交わりの全てが私を作っているということ。このことは私たちが平和に過ごせるように神様が計画をしてくださる。ということを知ることができました。

最後に、今までの私の大学生活は正直にお伝えすると非常に辛くしんどいことの方が多かったです。どうしたらいいかわからない壁にたくさん当たりなんで私ばかりと思うことがいまだにあります。でも、神様は私たちをどん底まで落としてよしとする方ではありません。私たちの幸せのために将来の希望のための計画なのです。

今年大学に入った 1 年生にとっては大学生活を心配させる内容が多かったかもしれません。驚かしてしまったと思いますが、大学生活はすごく楽しいですよ。そして、せっかく神様を知ることができる聖学院大学に入ったからには神様を知ってほしいです。神様はみなさんのことをいつも愛してくださるというのはたくさん聞いたと思います。ですが、それ以上に全てを使って私たちを愛してくださる神様の測ることのできない大きさにぜひ気づいてほしいと思います。

2023 年 5 月 9 日 聖学院大学 全学礼拝(学生の証し)